

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和元年 11 月 22 日(金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 :11 名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 :13 名
配布資料	① 式次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和元年度学校関係者評価結果 ⑤ 令和元年度第二回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介(事務局) 専門学校東京テクニカルカレッジ井坂副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。 2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、専門学校東京テクニカルカレッジ白井校長より挨拶が行われた。 3. 委員紹介 井坂副校長より本日の会議予定の説明のあと、資料②に基づいて委員の紹介が行われた。 4. 議長ほかの選出 本会議の議長については、日本インテリアプランナー協会会長霜野隆委員長が選出された。 尚、前回書記として選出された(株)光英科学研究所小野寺委員欠席のため、事務局にて書記を代行した。 5. 開催要件の確認 事務局より外部委員 16 名中 11 名出席、総計 24 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。 6. 議事 (1)第一号議案:令和元年度第 1 回会議議事録の内容についての確認 議長は事務局に対し、資料③に基づき前回議事録の確認を指示し説明をさせた後、これを出席者に図ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。 (2)第二号議案:前回の指摘事項とその改善点(本年度に改訂する自己評価報告書への加筆事項確認) 議長は事務局に対し、前回四号議案審議内容より指摘事項の改善等についての説明を指示。 事務局側では資料④に基づき指摘事項の改善状況と自己評価報告書加筆事項について説明を行った。 その後議長はこれらに対する疑義について出席者に図ったところ、全員一致で自己評価報告書への加筆事項に齟齬がないことが確認された。 (3)第三号議案:令和元年度事業計画進捗状況報告(白井校長) 専門学校を取り巻く状況 ・高等教育改革:高校指導要領 2020 年改訂→探求の科目など新設され、思考力、判断力、表現力ならびに主体性をもって仲間と一緒に働く力。これらも学力と呼ぶ。 ・大学入試選抜方法変更(共通テスト) ・大学教育も 3 つのポリシーに基づく質保証の必要性。 ・専門職大学は申請 13 大学、2 校のみ認可。 ・幼児教育高等教育の無償化実施。 ・リカレント教育充実(生涯学習の必要性)→給付金、産学連携 今年度の方針に基づく活動状況 ①エントランスディベロップメント ・来年度入学目標 350 名:現在 150 名出願(昨年 135 名、110%)目標に向けて募集努力。 令和二年、年明けから日本人一般入試限定だがネット出願開始検討。そのねらいは、 ・文科省 2020 高校調査書をデジタル化→紙からデジタルへの対応が早晚必要となる。 ・来年度入学試験の変更→受験生浪人できない→中堅大学偏差値上昇→大学希望者層取込み ②エデュケーションディベロップメント ・問題早期発見解決: 11/8 現在退学 15 名(2.9%)。非常に低かった昨年(1.7%)は超えているが、目標退学率 5%以内に向け努力。出席率 95.6%、課題残率 1.3%であり昨年度よりもやや良い。 ・わかる目標、できる目標の落とし込み:H29 年度ディプロマポリシー設定とそれに向けた履修表、カリキュラムフローの作成、H30 シラバス作成そして今年度その達成のためのコマシラバス、履修判定試験の見直しをすすめている。これは今後授業シートカルテの見直しへと続くことになる。 なお、ひと月ほど前に文科省中教審教学マネジメント特別委員会から、ディプロマポリシーについては「○○できる」という表現とするように通達が出ている。 2 年前から当校では「できる」という表現として進めてきた。大学では抽象的な表現であったのが、

ここにきて上記表現として示すようになってきており、たまたま先んじた形となっているが、進めてきてよかったと感じている。

③キャリアディベロップメント

・授業成果の見える化：出口に関する評価

就職 8 月末 就職 88% 11/8 段階で 内定率 95%、優良企業内定を目標
建築系は大手ゼネコン、建築設計企業(前田建設、熊谷組、大和ハウス他)、
情報系(チームラボ、東芝テック他)、バイオ環境系(JT、合同酒精、水ing 他)
大手、知名度そして実力のある企業に内定している。

就職支援サービスのクラウド上での展開(キャリアマップ)

学生側：クラウド上に学生の求職票、学習成果・作品を蓄積→eポートフォリオとしての導入→
匿名公開することで企業からの直接オファー等が可能。

企業側：求人票展開、卒業生のコメント掲載→学生への企業 PR 手段
学生への直接オファーなどの手段

中途採用情報も公開、閲覧可能に。

④リアルジョブプロジェクトに関する報告

・毎年 2 期から 5 期にかけて各科テーマを設定。年度ごとに達成目指し進めている。

建築監督科(8 階教場関連美化・改善、バウハウス設立 100 年事業共済イベント検討)、

建築科(10 階および共用スペース改善、地域調査・研究)、

インテリア科(階段室用椅子製作、学生寮モデルルームリノベーション提案(後援会企業より依頼)

情報処理科(AI の活用(KAIBER フレームワークによる検討)、IoT システム構築(Raspberry Pi
による検討)

ゲームプログラミング科(PC ゲーム開発(Unreal Engine による)、学園祭用ゲーム開発が終了
し現在ゲームサーバー構築を実施)、

Web 動画クリエイター科(吉祥寺ハロウィンイベント web サイト構築(NPO 法人からの依頼)、
RJP ペーパー制作)、 外部からのサイトの制作依頼で学生の授業満足度が向上している。

バイオテクノロジー科(テラカフェメニュー多様化(アイスコーヒー、紅茶他)、理科実験教室、
緑化・ハーバリウム)、

環境テクノロジー科(緑化、廃液処理装置、昆虫調査、プラスチック問題検討)

⑤海外研修

・海外短期留学研修(SISP):2019/7/10~7/23 実施、ピッツバーグ州立大学(カンザス州)
学園全体で 16 名参加。

・第 10 回国内環境研修:(2020/3/9~3/12 予定、屋久島(世界自然遺産)と鹿児島磯庭園
(世界文化遺産)、10 名参加予定。 昨年度まで小笠原で実施していたが、今後は北上山地、
釧路湿原など国内自然遺産を候補地として展開計画中。

・第 29 回建築・インテリア海外研修:2020/3 月中旬(フィンランド/ヘルシンキ~フランス/パリ予定)
25 名募集予定。

⑥学費無償化

幼児教育無償化 全世帯対象として実施開始。

来年度高等教育無償化→世帯収入に応じた 3 段階での補助。

文科省の私学助成金 3000 億であるが、今回の無償化予算は 7600 億円、2.5 倍規模の支援。
非常に喜ばしいことではあるが、混乱も生じており、マーケットがどのように動くか心配もある。
動向を注意している。

⑦リカレント教育→学びなおしに向けた国の政策

・教育訓練給付金(すでに全科対象):2 年以上雇用保険支を払っていた入学者→最大 57 万円支給。

・専門人材育成訓練(今年度春より開始):専門学校の課程の中に公共職業訓練枠を設ける。

今年度認定されたバイオテクノロジー科に 3 名が入学。

来年度拡充しバイオテクノロジー科 5 名、環境テクノロジー科 5 名、web 動画クリエイター科
3 名の枠で認定申請。

(4)第四号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

議長は学校の取り組み全般に対する各委員の意見交換を促した。また井坂副校長より審議の主旨に
ついて再度説明があり、自由に発言をいただきたい旨のお願いがあった。以下に各委員の発言概要を
示した。

澤坂委員(㈱アルチザン代表;ゲーム科卒業生):学校在学中のテストの在り方について。テストは本来学ん
だことの確認のためのものだと思うが、中にはひねくれている問題がある。カルテを作るときに 100 点
取らせすぎないように留意してほしいというお願いがあった。手段と目的が逆になっている気がする。
テストは次第に熟成されていく。まず作る。変えていく。どうしてもしだいにひねくれてしまう。
本来現場で必要な知識を問うべき。現場で失敗したところをテストを通して教える。テストの在り方
を見直してみるのも必要かと。学んだことを再確認するテストの在り方を考えたほうが良い。

増山委員(バイオ卒業生):シラバスきめ細かく作られている。このようにやっていくと力つくだろうと思う。
ただ自分で考えるというところがどうか。社会に出て行くと、人とのつきあいであたかかれることが多い。
人と人のかかわりあいをどうクリアするか。それを評価するような方法がないか。
対人スキルをどう上げていくか。きっちりしたシステムがあるので逆に子供たちが、これを受けてさえいれば大丈夫と甘えてしまうのではないか。自分の子供もデザイン系の専門に通っているが、毎日山積み
の課題があり提出期限ギリギリで出している。仕事でこのような期限ギリギリのもののクオリティが高い
わけがない。物事の期限があるときに、いかに余裕をもってクリアするか? そのための意識や技術を持
つ必要があるのだ、という覚悟を持たせることが必要。システムがきちんとしているからこそ、人間っ
ぽいところを見る。試験では点数で知識の状況はわかるが、人となりはなかなかわからない。
Web にポートフォリオを載せるという話があったが、自由な形で表現をうまくできる場所があると良い
と思う。

白石委員(建築監督科保護者):教育の環境変化している。対応大変だと思うが親として進めてもらいたい
と感じている。私も仕事では管理する側になってきているが、例えば年度内にさまざまなチャレンジの機会
がある。ところが今の若者は自分の考えと違うとすぐに辞めたいのですが…という相談になる。
学生時代に多角的にチャレンジしていこうとする気持ちが沸き上がっていく人になれば良いのでは。
退職代行のニュースがあるが、自分の会社でも実際にあったため考えてしまう。
社会と連携して、やりたいことを仕事として続けていけるような学びができるとうい。

渡辺委員(web 動画クリエイター科保護者):熱心に教えて下さっていると感じている。文化祭も積極的に説明
してくれたり、屋台も活気があった。楽しく仲間と学んでいるのがよく分かった。 来年はもう就職と考える
とあわただしいが、熱心に考えてもらえているので安心している。その結果として入学者増、就職先もひろ
がっていると思う。

小椋委員(環境テクノロジー科保護者):学園祭展示、作品のレベルが高い。楽しめるレベルのものをどの学生
も習得しており、挨拶、説明もしっかりしていて楽しめた。美術系大卒の娘と参加したが、そこよりもレベル
が高いと感心していた。学習成果が見える形、〇〇ができるという教育をされている所が良い。来年希望
のところに就職できると良いなと思う。

樋口委員(地域・商工会議所、㈱樋口設計):今はバブルの時と似ている。非常に景気がいい。でも建築は3~4
年後が厳しいと思う。

中山委員(地域・商工会議所、㈱イプシロン、情報系卒業生):IT、web 系の仕事に関連しているが、前回世の
中のスピード早いなどとお話したが、その後を振り返ってみると、この一年くらい大雨、台風、防災系の
仕事が増えている。その中でユニバーサルデザインが気になっている。今まであまり考えなかったことをデ
ザインの中で考えなければならなくなっている。世の中が取り組んでいる環境、SDGs や 2030 年間
題、持続可能性など、学校のカリキュラムの中にそのような視点があってもいいかと。
大きな会社や自治体などへの就職で、あらゆる人に対応できる視点、これを持つと有利かと思う。

岸委員(町内会):e-ポートフォリオの取り組みは素晴らしい。就職が大きい課題であろうからそこに注力され
るのは当然かと思う。ただ働いて、振り返った時の満足度のフォローは見えなかった。
学生の方は忙しい中で勉強し、そして就職していく。自分は今なにをしているのかと考え直す時間は取れ
ない。卒業した先輩がそれを後輩たちに伝えることができればよいのではないかと。
RJP ペーパーの内容が面白い。学内だけではなく外に向かって言ったらよいのでは。もったいない。

大塚委員(建築設計事務所):RJP に一番興味がある。仕事柄どうしても建築系の内容が気になる。ほとんど
が物を作ることを考えているが、その中でバウハウス 100 年協賛イベントが興味深い。監督科単独では大
変。他科も含めていろいろやるとよいのではないか。
もう一つ最近特に感じたことであるが。ある大学の先生の講義を聞きに行ったのだが、その大学、先生のキ
ャクターが続いていると感じた。この学校でRJPを中心とした思考のベースを作っていく。それを積み重ね
て人間の魅力が出てくる。例えば東京も江戸時代の町が基本にあって、そこにいろいろ積み重なってきて
魅力が出てくる。
ある一定の条件があり、それに沿って勉強するというのではなく、この条件はこのような意味だから勉強す
る。このような思考の元となることを意識する。意味を教え込んだうえで、学修を進めていく。
一級建築士の試験が変わったが、なぜ変わったのか、なぜ変わっていかなくてはならないのかを考えるこ
とで変わっていく。 考えるという癖をつけさせることが必要。

杉山委員(区議、桔梗 ICT パートナース(㈱)、NPO 中野コンテンツネットワーク):学生が入学したとき、卒業した
時、そして就職して 10 年後どうなっていきたいのか将来像をしっかり持ったうえで、スキル、人間力とか表現
力とかをつける。技術スキルは十分かと思うが、表現力をつけるように授業の中に入れていただきたい。
区議会議員としては、就職先に中野の大手企業がないのが残念。丸井の本社やライオン事務機など古く
からの企業もある。ぜひ地域の企業にも入ってもらいたい。この学校に入ると〇〇に入れるといったよう
に、地域に結びつくルートづくり頑張してほしい。

	佐々委員(NPO 暮らしとバイオプラザ 21):二点ある。 一点目は できる目標、わかる目標を提案されていたが、先生方は大変だと正直思った。先生方がこれを作るために本当に教えるべきことは何かを考えたと思うが、それを出した時の達成感というか、先生方の声が聞けるとよかった。あと何をして「できた」というか？教育理論にラーニングピラミッドがあるが、TOP は人に教えることができる。今後できる目標を、テストでよい点を取れたということだけではなく、その人がエンドユーザーに対し成果を言えるとか指導できるとか、より質の高いできる目標を設定して、より深めてほしい。 二点目は日本では自殺者が多い。絶対死なない人を育ててほしい。そのためにRJPのような授業で人間力の強い人、負けない、へこたれない人を作してほしい。またへこたれてもサポートする仲間がいる、学校があるといったネットワークを作してほしい。ネットワーク作りの良いエレメントは持っているのをそれを強めてほしい。 霜野委員長・議長:社会環境は変化している。学校教育をどのようにしていくか。先生方は大変であるが、やはり社会の変化に対応してほしい。 生産者から消費者まで届ける履歴を残すなど、エンカル消費が問題となっている。倫理的に正しいものを正しく使っていくという言葉がよく出てくるようになった。また SDGsの話、CO2 環境の問題もでている。この辺を教育カリキュラムのどこに入れたらいいのかわからないが、それを入れてほしいと感じている。 現在の意見、感想も含め、学校関係者として評価をおこないますが、教育的視点からテニカルカレッジらしい取り組みを進めていってほしい。 白井校長: 貴重なご意見ありがとうございました。 ・ひねくれた試験問題についてですが、わかる目標、できる目標が明確でない状況では、何を問うべきかぼけてしまっていた。この二年間でディプロマポリシーを達成するためにどのようなことを教えるべきなのか、これが過不足なく出てきており、これで問題がシンプルになっていくと思っている。 ・自分で考える大切さのご指摘。シートカルテを使っているとたしかに怖くなる場所がある。これにだんだん頼るようになる。学生たちは鶏みたいにただ待っているだけになる。それで RJP を作った。試験受ける時も段取る。どのようにして合格するか？これも仕事といえる。自分で考えて勉強するということがないと問題かと。RJP では皆で考えて話し合っ解決する。そこでバランスが取れると良いかと思っている。 ・学園祭を通して共感をいただいている様子であり、安心するとともに、使命感を感じた。 ・防災、SDGs の精神を教育の中に入れていかなければならないと感じた。 ・なぜそうなったかの理由が大切とのご指摘。ただ現象を追うのではなく、なぜ変わったのかわかれば対応ができるということもよく分かる。 ・中野区に就職…のお話は耳が痛い。前橋国際大学大森学長がグローバルという言葉を作った。地元の学生を集めてグローバルに育てて群馬に(ローカルに)就職させる。東京には就職させない。これがグローバル戦略とのこと。今後は中野区の企業への就職も進めたいと思う。 ・絶対死なない人。強烈な言葉だが重要。働き方改革とはいえ実際にはハードワークで、プレッシャーは多い。ポイントは問題解決力なのかと。どのようなことがあっても自分で考えて解決する強さ。そのようなものが育てられるプログラム、教育の土壌などが作れていければと思う。 以上のご指摘を教育にどのように還元していくか検討続けたい。 霜野委員(議長):学校関係者として適切な取り組みがなされていると評価いたします。 今後も改善努力を続け、情報公開をお願いいたします。 これにて閉会いたします。 (5)次回日程について(井坂副校長) 令和2年3月12日(木)14時00分～17時00分 令和元年度課題研究、RJP 成果発表会開催を予定。 今後とも当校の教育にご理解とご協力を賜りたい。 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。 以上
--	---

議事録署名人

_____ 印

_____ 印